



令和4年3月4日

福岡市政記者各位

経済観光文化局文化振興課

令和3年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞 受賞者が決定しました

令和3年度福岡市文化賞及び福岡市民文化活動功労賞の受賞者が決定しましたので、お知らせいたします。

福岡市文化賞

芸術を中心とした福岡市の文化の向上発展に貢献し、特にその功績が顕著な個人、団体を表彰することにより、市の芸術文化活動の推進を図ります。

【制度創設】昭和51年度（今年で第46回目）
【受賞者累計】163名5団体（令和2年度まで）
【受賞基準】本市の文学、音楽、美術及びその他の芸術芸能等の向上発展に貢献し特にその功績が顕著であるもの

令和3年度受賞者

【詩】 いしまつ 石松 けい 佳
【彫刻】 かたやま 片山 ひろし 博詞
【映像・映画】 いとう 伊藤 たかし 高志

福岡市民文化活動功労賞

市民文化を育てる諸活動に努め、潤いのあるまちづくりに貢献し、特にその功績が顕著な個人、団体を表彰することにより、市民文化活動の推進を図ります。

【制度創設】平成6年度（今年で第28回目）
【受賞者累計】31名24団体（令和2年度まで）
【受賞基準】地域に根ざした文化活動や、地域の文化団体等の支援と育成、また、国際的な文化の交流活動を通じて、本市の市民文化の振興に多年貢献したのもの

令和3年度受賞者

【地域に根差した文化活動】

ドリアーノ・スリス
はりき やすひろ
梁木 靖弘

■ 贈呈式（関係者のみ出席）

日時 令和4年3月26日（土）11時～

場所 福岡アジア美術館あじびホール（福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル8階）

※新型コロナウイルス感染拡大状況により中止する場合があります。

■ 添付資料

- ・別紙1）令和3年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の受賞者について
- ・別紙2）令和3年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の選考にあたって（総評）
- ・別紙3）福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞功績者調書

【問い合わせ先】

経済観光文化局文化振興課 中牟田
（電話：092-711-4664 内線1801）

令和3年度福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の受賞者について

(敬称略)

【福岡市文化賞】

○ 石松 佳 (いしまつ けい) 【文学 (詩)】

市内外の創作者らとともに活発な文学活動が続ける。平成31年に第57回現代詩手帖賞、令和3年に第一詩集『針葉樹林』で第71回H氏賞を受賞した。



○ 片山 博詞 (かたやま ひろし) 【美術 (彫刻)】

人体をモチーフに彫刻を制作。触覚性をコンセプトに、触れる彫刻展や、視覚を閉ざして体感するワークショップなどを開催する。作品は、県内外の美術館、博物館、学校や医療機関に收藏される。



○ 伊藤 高志 (いとう たかし) 【映像・映画】

実験映像作家として『SPACY』など多くの作品やコラボレーションを発表し、国際的な賞を多数受賞する。作品は、ヨーロッパ、アジアなどで招待作品として上映される。

【福岡市民文化活動功労賞】



○ ドリアーノ・スリス 【地域に根差した文化活動】

琵琶の制作、研究に取り組み、琵琶の修復師となる。琵琶職人を育てる学校を会館し後進の育成に努めるとともに、現イタリア会館・福岡を設立し日伊文化交流にも努める。



○ 梁木 靖弘 (はりき やすひろ) 【地域に根差した文化活動】

アジアフォーカス・福岡国際映画祭の立ち上げに関わり、企画・運営の主力として活躍し、日本のアジア映画ブームの初期の主導的立場を果たす。

令和3年度 福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞の選考にあたって（総評）

令和3年度も、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により、文化芸術分野は活動の自粛や公演・展示の縮小や中止など大きな影響を受け、大変厳しい状況が続く中での選考となった。

文化賞、市民文化活動功労賞の候補者の一般公募に応じて、文学2名・1団体、音楽1名、美術5名・1団体、舞踊2名、映像・映画2名、能楽2名、吟剣詩舞1名、書道1名、その他2名・1団体と、合わせて18名・3団体の推薦が寄せられた。

選考においては、まず事前選考として各選考委員が推薦書（主な活動歴・作品・受賞歴等）をもとに賞に相応しい候補者の検討を行い、選考委員会では各委員が推挙する候補者について評価理由を述べ、様々な角度から議論を行い合議制で受賞候補者の選考を行った。

文化賞は、市内外の創作者らと活発な文学活動を続け、H氏賞を受賞し今後の活躍が期待される石松佳さん（文学・詩）、「触覚性」をコンセプトに制作された彫刻で高い評価を得るとともに、触れる彫刻展や視覚を閉ざして体感するワークショップの開催等にも尽力している片山博詞さん（美術・彫刻）、ヨーロッパ、アジアなどで招待作品として多数上映されるなど、国内外で実験映像が高く評価され、後進の育成にも貢献している伊藤高志さん（映像、映画）の3名を選考した。

市民文化活動功労賞は、筑前琵琶の制作、研究に取り組み、筑前琵琶の日本で唯一の修復師として高い技術力が評価されるとともに、琵琶職人を育てる学校を創設したドリアーノ・スリスさん、アジアフォーカス・福岡国際映画祭の立ち上げに関わり、企画・運営の主力として活躍し、日本のアジア映画ブームの先駆的役割を果たした梁木靖弘さんの2名を選考した。

他の文化賞、市民文化活動功労賞の候補者もそれぞれに優れた活動実績が認められたものの、総合評価の結果、選考には至らなかった。

最後に、受賞された皆様をはじめ、今回候補者として推薦された皆様の今後ますますのご活躍を祈念するとともに、引き続き福岡市の文化の向上発展と市民文化の育成にご尽力いただくことを期待している。

福岡市文化賞・福岡市民文化活動功労賞 選考委員会

選考委員（五十音順、敬称略）

岩熊 正道（RKB毎日放送株式会社代表取締役専務取締役）	光行 洋子（九州産業大学名誉教授）
大塚 ムネト（ギンギラ太陽's 主宰）	山方 浩（福岡市文化芸術振興財団専務理事）
古賀 透（福岡県文化団体連合会調査役）	山本 百合子（福岡教育大学准教授）
深町 健二郎（音楽プロデューサー）	吉田 由布子（福岡教育大学名誉教授）
松隈 浩之（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）	龍 秀美（詩人）

福岡市文化賞功績者調書

*部 門 文学 (詩)		
氏名	生年	住所
石松 佳	昭和59年 (37歳)	福岡市
<p>詩人。</p> <p>平成25年、文学活動を開始。平成28年から詩の勉強会・合評会「福岡詩話会」の代表として活動。</p> <p>平成31年、第57回現代詩手帖賞、令和3年、『針葉樹林』で第71回H氏賞、第57回福岡県詩人賞受賞。</p> <p>市内外の創作者らとともに活発な文学活動を続けており、文学分野の普及・発展に尽力している。</p> <p>【受賞歴】</p> <p>平成31年 第57回現代詩手帖賞 令和3年 第71回H氏賞 第57回福岡県詩人賞</p> <p>【著書】</p> <p>令和2年 『針葉樹林』</p>		

福岡市文化賞功績者調書

* 部 門 美術 (彫刻)		
氏名 (芸名)	生年	住所
片山 博詞	昭和38年 (58歳)	福岡市
<p>彫刻家。上越教育大学大学院修了。</p> <p>平成18年、福岡市美術館にて誰もが触れて鑑賞できる彫刻展を開催。以来、「触覚性」をコンセプトに、触れる彫刻展や視覚を閉ざして体感するワークショップに取り組む。</p> <p>さらに平成23年より、彫刻とホルン、筑前琵琶、朗読、照明など、異なる表現領域とのコラボレーションを開催。美術館、音楽ホールのほか、アートに接する機会が少ない県内外の病院、老人ホーム等アウトリーチで展開し、感覚の統合による新たな意味の生成を試みる。</p> <p>作品は市博物館、直方谷尾美術館、笠間日動美術館、学校や医療機関に收藏されるなど、高い評価を受けている。その他、福岡市美術展、福岡県展、日展などで審査員を務めるなど、美術分野の普及・発展に尽力している。</p> <p>【主な活動・受賞歴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成12年 第35回日展特選受賞 平成15年 第38回日展特選受賞 平成19年 第42回昭和会展日動美術財団賞 平成23年 「ホルンと彫刻の調べ」(末永文化センター・長崎県立美術館) 平成26年 福岡文化連盟青木秀賞奨励賞 平成27年 「片山博詞彫刻展」(直方谷尾美術館) 令和元年 「片山博詞彫刻展」(福岡女子大学美術館) 令和3年 「ユニバーサル・ミュージアム展」(国立民族学博物館) <p style="padding-left: 20px;">福岡市視覚障害者福祉協会より感謝状授与</p> <p>【主な作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成13年 『1995. 1. 17ー或る乙女のための鎮魂曲ー』 平成20年 『分水嶺』 平成23年 『祈りの向こうへ』 平成25年 『ひざまづくひと』 平成26年 『大関魁皇』 平成28年 『舞踏』 		

福岡市文化賞功績者調書

* 部 門 映像・映画		
氏名	生年	住所
伊藤 高志	昭和31年（66歳）	福岡市
<p>実験映像作家、九州産業大学芸術学部教授。九州芸術工科大学（現九州大学）工学部画像設計学科卒業。</p> <p>昭和56年、九州芸術工科大学在学中に『SPACY』を発表し、世界の注目を浴びる。その後も多くの作品やコラボレーションを発表し、ヨーロッパ、アジアなどで招待作品として多数上映される。</p> <p>平成8年、『ZONE』でオーバーハウゼン国際短編映画祭優秀賞、平成15年、『静かな一日・完全版』でローザンヌ・アンダーグラウンド映画&音楽祭実験映画最高賞受賞、令和3年、『零へ』でイメージフォーラム・フェスティバル2021寺山修司賞受賞。</p> <p>その他、日本映像学会理事や、現在、九州産業大学芸術学部教授として後進の育成に努めるなど、映像・映画分野の普及・発展に尽力している。</p> <p>【受賞歴】</p> <p>平成8年 オーバーハウゼン国際短編映画祭優秀賞 平成15年 ローザンヌ・アンダーグラウンド映画&音楽祭実験映画最高賞 平成27年 オーバーハウゼン国際短編映画祭文化賞 令和3年 イメージフォーラム・フェスティバル2021寺山修司賞</p> <p>【主な作品】</p> <p>昭和56年 『SPACY』 昭和57年 『THUNDER』、『BOX』 平成7年 『ZONE』 平成14年 『静かな一日・完全版』 平成22年 『甘い生活』 平成26年 『最後の天使』 平成28年 『三人の女』 令和3年 『零へ』</p>		

福岡市民文化活動功労賞功績調書

*部 門 地域に根差した文化活動		
氏名	生年	住所
ドリアーノ・スリス	昭和22年（74歳）	福岡市
<p>イタリア会館・福岡館長、「琵琶館」工房・教室運営。イタリアのサルデーニャ生まれ。</p> <p>昭和49年、来日。昭和50年、筑前琵琶の音色と形に見せられ、唯一の筑前琵琶職人の福岡県無形文化財・吉塚元三郎氏に師事。琵琶の制作、研究に取り組み、筑前琵琶だけでなく、薩摩琵琶、平家琵琶、盲僧琵琶、笹琵琶などの修復にあたり、琵琶の修復師となる。令和2年「よみがえる琵琶 ドリアーノ・スリス修復琵琶展」開催。令和3年、琵琶職人を育てる学校「琵琶館」を創設し、後進の育成にも尽力する。</p> <p>その他、昭和56年、イタリア文化センター（現イタリア会館・福岡）を設立し、音楽会、映画上映会など日伊文化交流にも努めるなど、地域文化の振興に貢献している。</p>		

福岡市民文化活動功労賞功績調書

* 部 門 地域に根差した文化活動		
氏名	生年	住所
梁木 靖弘	昭和27年（70歳）	春日市
<p>演劇・映画評論家。早稲田大学大学院修了。</p> <p>アジアフォーカス・福岡国際映画祭の立ち上げに関わり、平成3年、第1回から企画委員、平成19年から令和2年の終了までディレクターを努め、企画・運営の主力として活躍し、日本のアジア映画ブームの初期の主導的立場を果たした。</p> <p>また、平成18年から平成27年の中止まで、福岡内外のアーティスト、地域、企業による舞台芸術の祭典「福岡演劇フェスティバル」の実行委員会委員長として、舞台芸術の振興に尽力した。</p> <p>著書『聖なる怪物たち』、『渚のモダニズム』を刊行、コクトー『映画について』、ミック『コメディア・デラルラ』等を翻訳し、九州芸術祭文学賞選考委員など、文学分野の普及・発展にも尽力している。</p> <p>平成27年まで、九州大谷短期大学教授として、舞台演出、映画学、演劇学を教えるなど、地域文化の振興に貢献している。</p>		